

歳出

（町の支出）

土木費

文化交流センターの具体的な備品

フットパスの維持管理は
議員 最上川の世界文化遺産登録に向け取り組んでいるなかで、本町にあるフットパスが注目されると思うが、維持管理の対応策を伺います。
当局 沿線の集落と一体となった、ヨシ刈りや、設置されている案内標柱を活用して、利用者に対応します。

備品の内容は
議員 文化交流センターの備品とは、具体的にどのようなものですか。
当局 総額6000万円程になり、内容は、テーブル、椅子や多目的ホルルの音響・照明、ギャラリ用運搬車など多数の品目になります。

機能していない消雪道路の対応は
議員 消雪パイプが布設されていても機能していない箇所がありました。理由と今後の対策をお聞きします。
当局 機能していない箇所は、2カ所です。ポンプ、水量などの試験検査を行った結果、水が不足しているため、機械除雪を行っています。



花の植栽（フットパス）

教育費

荒砥高校への支援

給食センターの民営化は
議員 給食センターの民営化をする計画があるが、どのようになっていますか。
当局 給食センターの民営化への取り組みは、20年度から具体的に検討をします。
スポーツ振興基金を取り崩したが
議員 スポーツ振興基金を取り崩して予算の編成を行っているが、荒砥高校の活性化と

つたが、スポーツ振興の方向性をお聞きします。
当局 今まで行ってきた事業のほかに、子供たちを中心に、講演会、アスリートの招へい、スポーツ教室事業を展開し、スポーツに親しむ心を醸成していきます。
入学して良かったと思える支援
議員 荒砥高校の活性化と存続へ向け支援をするとして

ているが、具体的にどのような支援をしていきますか。
当局 現在、町の高校構想検討委員会を設置し取り組んでいます。基本的には入学して良かったと思える支援であり、具体的に、個別指導、ボランティア活動、部活動への支援を検討しています。

議員 荒砥高校の活性化と存続へ向け支援をするとして

つたが、スポーツ振興の方向性をお聞きします。

現在、町の高校構想検討委員会を設置し取り組んでいます。



調理作業の風景（共同調理場）

質疑

鮎貝まちづくり拠点整備事業6300万円の減額

補正の主なもの

- 一般会計補正予算の主なものは
 - ・財政調整基金積立に 3000万円の追加
 - ・病院経営事業に 4000万円の追加
 - ・温泉の源泉管理対策に 586万円の追加
 - ・除雪事業に 440万円の追加
 - ・鮎貝まちづくり拠点整備事業 6300万円の減額
 - ・ため池等整備事業 587万円の減額
- 財源は、国、県支出金、町債、繰越金などで調整します。

補正予算

平成19年度
一般会計総額 72億 1,959万円となる

質疑

減額の内容は
議員 鮎貝まちづくり拠点整備事業費6300万円の減額について伺います。
当局 文化交流センター建物のランドマークに調整を要するため、19年度の工事出来高が予定を下回るため、6300万円を減額するものです。

負担金の見直し
議員 ため池等整備事業について19年度より県の負担金補助が見直され、新たに2%が地元負担となったが町の考え方を伺います。
当局 町の負担も10%から14%に上がりましたが、新規ため池整備事業を可能にすることが行政の役割と考えます。2%の地元負担に地元が耐えられるか、また町が肩代わりできるかを十分検討し対処していきます。



完成した原虚空蔵ため池（中山地区）

平成19年度補正予算総括表

会計項目	補正額	補正後の額
一般会計	1,365万円	72億 1,959万円
下水道	4億 4,488万円	11億 6,160万円
国民健康保険	87万円	15億 1,717万円
老人保健	1,800万円	18億 1,847万円
農業集落排水	791万円	8,538万円
介護保健	2,428万円	13億 6,343万円
水道	収益的支出 1億 3,906万円	2億 8,983万円
病院	収益的支出 1,600万円	11億 8,600万円
訪問看護	収益的支出 580万円	3,880万円